

【別紙様式 = 中学校用】

| | |
|--------|-----|
| 都道府県番号 | 13 |
| 都道府県名 | 東京都 |

【 】

. 学校名及び規模

| | | | | | | |
|-----|-----------|----|----|------|-----|-----|
| 学校名 | 文京区立第五中学校 | | | | | |
| 学年 | 1年 | 2年 | 3年 | 特殊学級 | 計 | 教員数 |
| 学級数 | 2 | 2 | 2 | 0 | 6 | 16 |
| 生徒数 | 58 | 58 | 68 | 0 | 184 | |

研究の概要

(1) 研究主題

「生徒一人一人の学力を伸ばすための指導法の工夫・改善」

- 観点別学習状況の評価及び評価の工夫改善とそれに伴う授業実践 -

(2) 研究主題設定の趣旨

全教科・全学年において個に応じた指導の展開をするために、習熟度に応じた少人数編成授業・チームティーチング(TT)・選択履修幅の拡大を全校での指導体制として確立する。また、全教科・全学年において指導と評価の一体化を図って、指導法の工夫・改善をし、学力の向上を図る、との基本方針の下、校内研究と授業実践により追究する。

研究の概要

(1) 研究推進体制の工夫

校長 - 校内研究推進委員会：教頭・フロンティアティーチャー・推進委員(6名) - 教科部会

(2) 研究の実際

全教科・全学年において個に応じた指導体制の確立

ア 習熟度別少人数編成による授業(全学年 数学科、英語科)

イ ティームティーチング(TT)によるきめ細かい指導(全学年 社会科、保健体育科)

ウ 可能な限り選択できる選択教科履修幅の拡大(全学年 全教科)

全教科・全学年において指導と評価を一体とした指導法の工夫・改善

ア 観点別学習状況の評価の工夫を図る

イ 生徒の観点別学習状況の達成率を高めるための指導法の工夫・改善を追究する

(3) 研究の成果と課題

【成果】

習熟度別少人数編成による授業(全学年 数学科、英語科)

チームティーチング(TT)によるきめ細かい指導(全学年 社会科、保健体育科)

可能な限り選択できる選択教科履修幅の拡大の実施の実現(全学年 全教科)

全教科・全学年において指導と評価を一体とした指導法の工夫・改善

全教科・全学年において、学力の向上を、各生徒の観点別学習状況の達成率を高めることとし、観点別学習状況についての分析をし、それに基づく指導法の工夫・改善を授業実践を通して追究した。

全教科・全教員が生徒の実態を観て、本年度に重点とする観点を選び、研究の視点とした。

【課題】

個に応じた指導体制の充実

指導と評価を一体とした研究体制の充実

研究成果の検証の方法

(4) 研究成果の普及の方策

本事業について保護者、学校運営連絡協議会委員、地域の人々等への周知

- ・保護者会での説明や報告、学校運営連絡協議会での説明や報告
- ・学校だより（毎月発行）での紹介
- ・授業公開の実施（年2回、土・日曜日を含めたのべ6日間）
区内および都内の学校等への普及
- ・平成16年1月22日、文京区主催「『文の京』の明日を創る教育のつどい」において区民向けのパンフレットに本校の取組を掲載、配布。
- ・平成16年2月に本校の取組についてパンフレットを作成し、都内の全中学校、教育機関、区内全小中学校、本校の保護者、地域関係者、関係機関等に配布し、普及と周知を図る。

次の項目ごとに、該当する箇所をチェックすること。（複数チェック可）

| | | | | |
|----------------------|----------------------------|-------------------|----------|-------------|
| 【新規校・継続校】 | 15年度からの新規校 | 14年度からの継続校 | | |
| 【学校規模】 | 6学級以下 13～18学級 25学級以上 | 7～12学級 19～24学級 | | |
| 【指導体制】 | 少人数指導 その他 | T・Tによる指導 | | |
| 【研究教科】 | 国語 外国語 体育 | 社会 音楽 その他 | 数学 美術 | 理科 技術・家庭 |
| 【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】 | | 有 | 無 | |